

Title	事例にみる新しい企業コンセプト：技術開発の方向を 探る
Author(s)	
Citation	年次学術大会講演要旨集, 9: 228
Issue Date	1994-10-28
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5414
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載する ものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	シンポジウム

シンポジウム

事例にみる新しい企業コンセプト — 技術開発の方向を探る —

司 会 池 島 政 広（亜細亜大学）

（１）基調講演

優れた企業の条件－活性化と個性化－

清 水 龍 瑩（東京国際大学）

（２）事例報告

これからの経営戦略と開発

中 西 幹 育（鈴木総業）

技術者の前線シフトによる活性化

阿 部 惇（松下電工）

アイデアから売れる商品へ

小 倉 理 一（西日本流体技研）

高機能粘着剤製造における新商品開発

中 島 幹（綜研化学）

セコムの企業コンセプトと技術開発

宮 内 幸 治（セコム）

（３）総合討論

モデレーター

古 矢 眞 義（日本総合研究所）

篠 原 光 伸（成城大学）

亀 岡 秋 男（東芝）

趣 旨

今日、日本企業は、欧米先進国の企業へのキャッチアップの体制を脱却して、独自の企業コンセプトを持って、マネジメントしていかなばならないと論じられております。現実には、このような大転換は相当困難であると思われませんが、今までのような現場の改善の努力だけでは、発展途上国の猛烈な追い上げ等により険しい状況にさらされてまいります。そこで、今回のシンポジウムでは、トップ主体による個性的な企業コンセプトを構築し、独自の技術開発を展開している企業を取り上げて論議してまいります。

まず、基調講演におきまして、膨大な実証研究を踏まえて、優良な企業の条件を個性化・活性化の視点から話していただきます。これは、他社が容易に追随できないような中核能力をどう築き、どのように活用していくかということであると思われれます。企業コンセプトを構築していく際の重要な要素になってまいります。もちろん、社会の中での役割、消費生活との関連等を真剣に考えるという基本を忘れてはなりません。さらに、企業内の人々もハッピーになれる、とりわけ、研究者との関連では、創造的な仕事にチャレンジできるような企業でなければなりません。

現在のような低成長期でも活力ある５社の事例をもとに、従来とはひと味違ったこれからの新しい企業コンセプトを以下の切り口から論議して、今後の技術開発の方向を探ってみたいと思います。

- （１） 商品・サービスの斬新さ（特殊な技術・市場の開発、システム商品）
- （２） 企業の形態（グループ経営、規模の問題、機能の特化）
- （３） 組織構造（技術と市場との相互作用を促進する仕組み等）
- （４） 研究者の活性化（人事評価、研究環境等）